

貨幣の需要

貨幣の需要は、GDP が大きいほど大きく、利率が高いほど小さい。

I. 取引に使うための貨幣需要

A. 貨幣と他の財サービスとの違い

1. 取引に使われる貨幣：手放すことによって役に立つ。
2. 他の財サービス：手に入れることによって役に立つ。

B. 活動残高需要

1. 活動残高 (active balance)
 - a. 取引を通じて社会の中を循環している。
 - b. 一つのところに留まるのは短時間
2. 活動残高需要を決定する要因
 - a. 社会の総取引額
 - b. GDP の大きさがそれを代表する。

$$L_1 = L_1(Y), \quad Y \text{ の増加} \rightarrow L_1 \text{ の増加}$$

II. 資産としての貨幣価値

A. 名目価値と実質価値

1. 名目価値：貨幣の定義によって不変
2. 実質価値
 - a. インフレーション：貨幣の実質価値の減少
 - b. デフレーション
 - (1) 貨幣の実質価値の増大
 - (2) 経済活動全般におよぶ問題：デフレ・スパイラル

不況 \rightarrow デフレ \rightarrow 不況の深化

B. 中央銀行の役割

1. 貨幣の実質価値の安定化
2. 現実の目標：物価の安定化

III. 資産としての貨幣需要

A. 価値貯蔵手段

1. 収益性と危険性のあいだのトレード・オフ
 - a. 高危険高収益 (「ハイ・リスク、ハイ・リターン」)
 - b. 効率的な資産構成
2. 価値貯蔵手段としての貨幣の特徴
 - a. 低い収益性
 - b. 高い安全性 (過度のインフレが予想されないことが条件)

B. 貨幣保有の動機と保有の費用 — 不活動残高需要を決定する要因の分析

1. 安全性, 危険分散

2. 高収益の断念

- a. 機会損失（機会費用）の発生
- b. 預金通貨以外の資産に関わる収益率としての利子率

$$L_2 = L_2(r), \quad r \text{ の上昇} \rightarrow L_2 \text{ の減少}$$

IV. 投機と貨幣需要

A. 債券の市場価格と利子率の関係

1. 発行条件の確定

- a. 利付債券：満期まで毎期支払われる利息額と満期返済額
- b. 割引債券：満期返済額

2. 利子率（利回り、内部収益率）の計算：債券の市場価格が高い ⇔ 利子率が低い

a. 満期 1 年の場合

(1) 利付債券

利息額 1000 円，満期返済額 10000 円で現在の市場価格が 10000 円の場合

$$\text{利子率} = \frac{11000 - 10000}{10000} = 0.100 \quad (10.0 \text{ パーセント})$$

$$\text{現在の市場価格 (10000)} = \frac{\text{満期の元利合計 (11000)}}{1 + \text{利子率 (0.1)}}$$

(2) 割引債券

満期返済額 10000 円で現在の市場価格が 9000 円の場合

$$\text{利子率} = \frac{10000 - 9000}{9000} = 0.111 \quad (11.1 \text{ パーセント})$$

$$\text{現在の市場価格 (9000)} = \frac{\text{満期返済額 (10000)}}{1 + \text{利子率 (0.111)}}$$

b. 満期が T 年の場合

$$B = \frac{i}{1+r} + \frac{i}{(1+r)^2} + \cdots + \frac{i+A}{(1+r)^T}$$

i : 支払利息， A : 満期返済額， B : 現在の市場価格， r : 利子率
(割引債券の場合， $i = 0$.)

B. 「強気 (Bull)」と「弱気 (Bear)」

1. 債券の予想価格

a. バラつき — 予想価格は人々のあいだで異なる。

(1) 強気の人：債券価格上昇を予想 → 債券を購入，貨幣保有を減らす。

(2) 弱気の人：債券価格下落を予想 → 債券を売却，貨幣保有を増やす。

b. 予想の粘着性（膠着性）：予想価格の変動は現行市場価格の変動に比べて小さい。

2. 債券の現行市場価格上昇（利子率下落）の影響

- a. 弱気勢力の増大
- b. 貨幣需要の増大

参考文献

教科書．第 3 章，63-67，69-72，80-82 ページ．